

◆資料

マレーシアの看護教育：看護課程の発展と特徴

Nursing Education in Malaysia: Development and Characteristic of Nursing Program

宇仁 茂彦^{1)*}, Chui Ping Lei²⁾, Tang Li Yoong²⁾,
Mat Udin Ahmad Syihan³⁾, Zainuri Nur Afiqah³⁾,
Chong Mei Chan²⁾, Abdullah Khatijah Lim²⁾,
中岡 亜希子¹⁾, 木村 大輔⁴⁾, 宇賀 昭二¹⁾

Uni Shigehiko, Chui Ping Lei, Tang Li Yoong, Mat Udin Ahmad Syihan, Zainuri Nur Afiqah,
Chong Mei Chan, Abdullah Khatijah Lim, Nakaoka Akiko, Kimura Daisuke, Uga Shoji

抄 録

近年、マレーシアの看護教育において、大学のカリキュラム構成に大きな変化が起きている。マレーシアにおける看護教育の進捗状況を研究するために、われわれは、高等教育省看護教育タスクフォースから出版されている「2020年に向けたマレーシアの看護教育の発展」という論文を用いた。さらに、マラヤ大学看護学科の学士および修士課程のカリキュラムを分析した。2010年では、看護師の大部分は単科大学や大学の3年制の教育課程を受けたディプロマ卒業生であった。看護実践の質を向上させるために、高等教育省は看護教育をディプロマ課程から大学4年制の学士課程に移行すべきことを提唱した。2020年には、高等教育省は看護学士号を有する看護師の多くが臨床で働くことを目指した。高等教育省は専門看護師、看護師長、および看護管理者などの地位は修士課程を修了した看護師に提供されるべきであると提言している。マラヤ大学の看護学科において、学士課程および修士課程の看護教育が急速な進歩を見せていることが分かった。学士課程では、根拠のある看護を実践できる看護師を養成することが目的である。また、マラヤ大学の学部カリキュラムでは、イスラムおよびアジア文明論、民族関係論、および起業家精神文化論などの科目を含んでおり、それらはマレーシアの多民族社会を反映している。修士課程では、看護学研究が主要な構成要素である。また、大学院は看護の分野に関係する研究を行った院生に博士号(Ph.D)を授与している。問題解決型学習、学生中心の教育、根拠のある実践などはマレーシアの看護教育における核心的な論題である。また、看護の専門職性および自律性はマレーシアにおける専門的な看護実践のために大切な論点である。

キーワード：自律性、根拠のある実践、看護専門職、看護学研究、マラヤ大学

Key words : Autonomy, Evidence-based practice, Nursing profession, Nursing research, Universiti Malaya

I. はじめに

マレーシアはタイの南に隣接し、赤道からやや北に位置する熱帯地域の国である。東南アジア諸国の中では、シンガポールについて治安や医療事情が良い国とされて

いる。自然災害は少なく、冬がないので高齢者にとっては生活がしやすい国であると言われる。わが国の多くの企業が進出しており、また高齢者のロングステイ先として最も好まれる国である(外務省, 2021)。

現在のマレーシアは、15世紀以来のイスラム教国家であるので、至る所にモスクが見られ、朝夕、モスクの拡声器からアラビア語の礼拝の告知(アザーン)が聞こえ、イスラム教文化の強い影響が感じられる。また、かつて英国の植民地であったので、その影響がまだ色濃く残っており、公用語はマレー語であるが、多くの人々は英語を話し、大学では英語で講義が行われている。2020年のマレーシアの人口は3,200万人で、マレー

¹⁾ 神戸女子大学看護学部看護学科

Kobe Women's University, Faculty of Nursing, Department of Nursing

²⁾ マラヤ大学医学部看護学科

Department of Nursing Science, Faculty of Medicine, Universiti Malaya, Malaysia

³⁾ マラヤ大学理学部生物学研究所

Institute of Biological Sciences, Faculty of Science, Universiti Malaya, Malaysia

⁴⁾ 神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科

Kobe Women's University, Faculty of Health and Welfare, Department of Health, Sports, and Nutrition

系 (69.6%), 中国系 (22.6%), およびインド系 (6.8%) の人々で構成されている (外務省, 2021). マレー系の人々はほとんどイスラム教徒であり, 豚肉やアルコール類は宗教上, 禁じられ, ハラル認証 (ハラル認証機関によって認められたもの, また牛や羊の肉などはイスラム教の教えに則った方法で屠畜や加工が行われている) の食品で生活をしている. テータリック (teh tarik) と呼ばれる, コンデンスミルクが多く入った甘いミルクティーが国民的な飲み物であり, また, かなり甘いドリアン料理などが好まれている. このような食習慣のために, 肥満や糖尿病が大きな健康上の問題になっている. マレーシアは東南アジア諸国の中では経済的に発展している国で, 1991年に当時の首相マハティールは2020年には先進国に入るというビジョンを発表した (Mohamad, 1991). その方針に基づいて, 大学教育においても, いろいろな改革が進められている.

マレーシアの一般的な看護事情や制度については山本ら (2000) およびリーら (2014), また継続教育については Chong ら (2011; 2014), 男性看護師の必要性については Sowtali (2019) の報告がある. また, ASEANにおける看護人材の動向については山田・勝間 (2020), マレーシアの医療事情については真野 (2013), 日本貿易振興機構 (2014), Ministry of Health Malaysia (2017a, b), 高山ら (2018), そして WHO (2018) の報告, 医学教育については大西 (2005), 別府・奈良 (2009), また病院での疾病状況については保健省 (Ministry of Health Malaysia, 2017a, b) の報告などがある.

マレーシアでは, 近年の生活水準の向上, 医療の高度化そして高齢化に向かう社会の変化などから, 看護の役割の拡大が必要になる状況が考えられるために, 高等教育省や保健省は看護教育や看護制度の変革を検討している (Ministry of Higher Education Malaysia, 2010; Ministry of Health Malaysia, 2017a). マレーシアとわが国とでは, 気候, 自然環境, 国の歴史, 宗教, 文化, 国柄, 国民性および教育制度などがかなり異なるので, 看護教育について比較はかなり困難であるように思われる. しかしながら, 一般的に外国の看護教育や制度の変遷を調べることによって, わが国の看護教育を客観的に振り返る機会になり, その特色や課題がより鮮明に見え, 示唆が得られることがあるように思われる.

本稿では, 初めにマレーシアの一般的な医療事情を述べ, 次に2020年に向けて発表されたマレーシア高等教育省看護教育タスクフォースによる看護教育の変革

への提言 (Ministry of Higher Education Malaysia, 2010) の概要を述べる. さらに, マラヤ大学医学部看護学科のカリキュラムおよび大学院修士課程のプログラムを紹介する. 考察では, マレーシアの最近の看護教育の課題やわが国との関連などを述べる.

II. マレーシアの医療事情

2017年の保健省の報告によると, 国立病院での入院患者の原因疾患を多い順に並べると, 正常分娩および産褥期疾患 (23%), 呼吸器疾患 (13%), 感染症 (8%), 循環器疾患 (8%), 外傷および外因性疾患 (7%) などである (Ministry of Health Malaysia, 2017a). マレーシアの疾病構造の特徴として, 出産を含む周産期疾患, 産褥期疾患が多いことが挙げられる. これは出産年齢に相当する若い人口が多いことによる. 感染症では, 蚊の媒介によって伝播されるデング熱の感染者が最も多く, 都市部でも普通に見られる病気である. マレー系の人々の家庭では子供が多いが, マレーシアの人口全体の統計では出生率の低下が見られ, 2020年から高齢化社会に入り始めている (Ministry of Health Malaysia, 2017b; 真野, 2013). 生産年齢人口といわれる15-64歳の人口は全人口の69.6%, 14歳以下は24%, 65歳以上は6.3%である. また, 平均寿命は男性72.5歳, 女性77.4歳である. マレーシアでは高齢者はほとんど自宅におり, 三世帯が一緒に住む大家族が多いので, 家族が高齢者の世話をしていると言われる. しかしながら, 最近では高齢化社会への対応の必要性が議論され始めている (日本貿易振興機構, 2014). マレーシアの人はわが国で高齢者が屋外で活発に活動しているのを見て驚くことが多い.

マレーシアには国民皆保険制度は存在しない. 一部の公務員を除き, 多くの人々は民間の医療保険制度に加入するか, 自費で診療を受ける. 病院は国立と私立に分かれており, 公立病院はない. イギリスの医療制度に倣い, 国の病院は主に低所得層の人々を救済するような制度である. したがって, 国の病院では, 医療費は極めて安く抑えられ, また, 高度な医療も提供されないという方針であり, 医療環境はあまり良いとは言えない. 一方, 中産階級層, 富裕層や外国人は主に民間病院を利用する. 大きな民間病院として, クアラルンプールにプリンスコート病院やパンタイ・クアラルンプール病院があり, これらの病院は米国の国際的医療認証機構 (Joint Commission International: JCI) の認証を受け, ホテルのような快適なサービスと高度な医療を提供してい

る。マレーシアでは国の方針に基づき、医療ツーリズムを推進しており、インドネシアからの患者が多い（真野，2013；日本貿易振興機構，2014；Ministry of Health Malaysia, 2017a；高山ら，2018）。

最近のマレーシアにおける看護師の総数は102,564人である（Ministry of Health Malaysia, 2017a, b）。看護師と患者の比率は1:300である。WHOは1:200を標準と考えている。また、看護師と人口との比率は1:309である。因みに、マレーシアの医師数は50,087人で、人口比率は1:632である。看護師の国際間の移動について、2016年のマレーシアの報告では、59人の外国籍の看護師が働いている（Ministry of Health Malaysia, 2017a）。インド国籍（34人）、フィリピン国籍（8人）、シンガポール国籍（3人）、英国国籍（3人）、およびその他の国籍の看護師が働いている。日本国籍の看護師が1名登録されている。一方、シンガポールでは、シンガポール国籍（23,063人，70.6%）、フィリピン国籍（5,115人，15%）、マレーシア国籍（2,237人，6.8%）の看護師が働いている（Singapore Nursing Board, 2017）。マレーシアの看護師はある程度、勤務経験を積むと、シンガポールの他に、待遇の良いカタール、オマーンなどのアラブ諸国やアイルランドなどヨーロッパ諸国に働きに出かける。マラヤ大学を卒業した看護師は看護職を得るために、さほど困難さはないと言われるが、最近では、多くの看護師にとって、国立病院での終身雇用の看護職を見つけることは難しいと言われる。

Ⅲ. マレーシアの看護教育についての高等教育省の提言

1. 大学の看護教育

マレーシアの看護教育は1946年ジョホールバル病院、1947年ベナン島病院、そして1948年クアラルンプール病院の3箇所の看護学校において、英国人の教員のもとで始まった。1952年から英国の看護教育制度に倣って、学生は3年間の教育（理論，20%；実習，80%）を受け、その後、英国、ニュージーランド、そしてオーストラリアなどの病院で、英国人の指導教員の下でさらに教育を受けた。

2008年には10国立大学、17国立単科大学、そして54私立単科大学で、6,000人が3年課程の看護教育を受け、ディプロマ（Diploma）を取得している。高等教育省は2003年に、大学4年課程の看護教育を制定した。4年課程を卒業すると看護学士号（Bachelor in Nursing, Degree of Nursing）が授与される。ディプロマまたは

学士号の保有者は、保健省の下にある看護実践の監督部門にあたるNursing Board of Malaysiaの看護師資格試験を受け、合格者は看護師として登録される。2010年の時点で、109の国立、私立の大学、単科大学に看護教育機関があり、その内、88教育機関では3年制のディプロマ課程であった。ディプロマ課程では、カリキュラムは3種類の学問分野から構成されている。すなわち、健康科学（10-20%）、行動科学（10-20%）、そして看護科学（60-80%）で、理論は45-55%、実習45-55%である。また、教員中心の教育であり、これらの教育課程では学生の批判的思考、問題解決能力、そして意思決定（decision-making）などにおいて、十分な看護教育が行われているとは言えないと高等教育省は判断した。したがって、政府の職制では大部分のディプロマの看護師には専門職としての地位が与えられていなかった。

高等教育省はそのような状況を変えるために、2020年までに、4年課程の大学教育の中に看護教育を位置づけ、看護学を医学、歯学、薬学のように専門職の学問として確立することにした。カリキュラムの内容において、基礎医学（15-20%）、看護学（55-65%：そのうち実習、45-55%）、人文および社会科学（15-25%）、科学的方法論（4-7%）、選択科目（2-7%）などを含むようにした。また、看護実施手順（Implementation process）においては、批判的思考ができ、問題解決力のある明晰な頭脳の必要性と思いやりや憐れみの感情を持った優しい心などを学生に学ばせること、そして看護実施モデル（Nursing process model）の習得と問題解決型学習（Problem-based learning）方法の必要性を指摘している。

特に、マラヤ大学を含む8国立大学、6国立教育機関、2私立大学では、医学部に看護学科が併設されて、4年課程の看護教育が行われている。この方式は、教育資源、人材において効果的であり、また、看護学コースの学生と医学コースの学生が共に教育されることにより、学生の間には、より良い刺激と相互理解が深まり、相乗的な教育効果が生まれるものと考えられているからである。因みにマラヤ大学の医学部医学科は5年課程である。

高等教育省は、大学4年課程の教育方法について、今までの教員中心の教育ではなく、学生を中心とした教育（Student-centered learning、学生の意見を反映した授業設計）に改め、課題を自分たちで考えて解決していく方法に変える必要性を指摘している。また、学生の評価方法については、臨床知識、コンピテンシー（clinical competence）、そして臨床成績（clinical performance）

によって行われる必要がある。臨床知識は筆記試験で調べられるが、コンピテンシーは患者/クライアントに対する直接のケアにおける臨床効果 (clinical effectiveness) によって評価される。臨床成績は複雑な臨床の実践環境における行動 (daily habits/behaviors) から評価される。すなわち、病棟における患者/クライアントに対する対応、緊急対応、患者家族や同僚との関係、チーム力、リーダーシップなどを含めて看護ケアの結果が評価される。

高等教育省は2020年頃には、臨床 (clinical setting) において、学士号取得看護師を60%、ディプロマ取得看護師を40%の比率にする方針である。しかしながら、現実には、学士号取得看護師はより良い待遇を求めて、シンガポールの病院に勤務することを希望し、また、看護管理者や大学教員を目指す。このために、臨床での看護師の待遇の改善を政府は考えなければならないと指摘している。

この提言では、これからのマレーシアの看護教育において、最新のアメリカの看護教育や制度を導入する必要性を述べている。まず、看護学士号取得看護師を専門的な看護師 (professional nurse) として Registered nurse (RN) に変え、ディプロマ取得看護師を技術的な看護師 (technical nurse) として Associate nurse (AN) に看護師の名称の変更を提唱している。また、高等教育省は大学のディプロマ課程を次第に縮小させる方針である。

2. 大学院の修士課程

高等教育省は、看護師として一定期間経験を積み重ねた後、さらに大学教員、看護管理者、専門看護師などになることを望む人は修士課程に入るように勧めている。修士課程では救命救急看護、助産学、精神保健学、地域保健学、小児科学、腫瘍学などを学び、専門看護師になることができる。その結果、教職に就くことができ、また臨床での看護管理者になることができる。さらに研究者として看護学の研究分野に進むこと、あるいは企業家として看護事業を起こすことなどができる。

3. 大学院の博士課程

臨床での看護ケアの高度化、地域社会における看護専門職の必要性、看護教育の高度化、そして看護学研究の推進などのために、博士号を取得した看護師の必要性が高まっている。この提言では、博士課程につい

て、臨床看護分野の研究を希望する人には、看護科学博士 (Doctor of Nursing Science, DNS) または看護実践学博士 (Doctor of Nursing Practice, DNP) のコースを考える必要性を指摘している。一方、基礎研究や理論研究を望む人は従来の Doctor of Philosophy (Ph.D) コースに進むことができる。マレーシアのように臨床実践能力を重視する看護環境では、看護職の最終的な学位として、Ph.Dより看護実践学博士が適切ではないかと述べている。

4. 継続教育 (Continuing and in-service education)

看護師は登録を更新するために、半年から1年にわたる継続教育 (Continuing and in-service education) を受けなければならない。また、マレーシア国民大学 (Universiti Kebangsaan Malaysia, UKM) では、専門看護師を育成するプログラムとして、腫瘍看護、精神保健看護、感染症予防看護、患者ケア管理などのコースを開講している。マレーシアにおいて、継続教育は保健省と高等教育省が行っている。また、保健省の Nursing Board of Malaysia はディプロマを有する看護師に2年間の卒後学士教育課程 (Post Registration Degree Program) を大学で受ける制度を設けている。高等教育省は2020年頃の看護職のキャリア発展 (career development) として、正看護師 (Staff nurse) にはディプロマを有する人または学士号を有する人、専門看護師、看護師長、看護管理者などには修士号を有する人、そして看護監督者には博士号を有する人を充てることを提言している。

5. 看護研究

高等教育省は、マレーシアにおいて、看護研究がこれから活発に進められるように期待している。そのために、大学の学部教育において、質の高い教育プログラムを提供して、研究文化 (research culture) を養う必要性を指摘している。また財政基盤を整えて、看護研究を整備する必要性を述べている。すでに一部の大学では、学生の研究計画が学部の倫理委員会で承認され、研究費が学生に支給されて、学生は資料を集め、分析を行い、研究を進めている例を紹介している。また、医学と看護学に関連する学際的研究では、看護学の教員と医学の教員の両者によって学生が指導されている例を挙げている。このような研究姿勢がよりよい研究文化を生み出すものであると述べている。

マレーシアにおける看護研究の発展のために、米国の看護研究の歴史を述べている。すなわち、米国では1950年頃からすでに、看護教育が高度化され、多くの修士号や博士号を有する看護師が養成された。その結果、看護教育、看護実践基準、そして看護ケアの質などの研究が発展した。さらに、看護実践を改善させるための臨床研究に移り、21世紀において、看護学の方向は「根拠のある実践 (Evidence-based practice, EBP)」を行う科学的知識の基礎研究が行われた。特筆すべきことは、1993年に、看護教育、研究、および訓練のために、米国国立看護研究所 (National Institute of Nursing Research: NINR) が設立されたことである。この研究所の存在によって、看護研究は医学研究と同様に科学研究であることを社会が広く認識するようになった。マレーシアにおいても、このような組織を設立する必要がある。

最近、看護の役割は大きく拡大している。メンタルヘルス、リプロダクティブヘルス、ヘルスツーリズム、ウェルネスマネジメント、がんサバイバーシップケア、災害救助や管理、ヘルスケアファイナンスなどの分野において看護ケアの必要性が認識されるようになってきた。これらは看護研究の新たな課題である。また看護実践において、看護ケアのコストについてあまり考えられてこなかったが、これから、費用対効果についても考えなければならないことを指摘している。

6. 看護の自律性 (Nursing autonomy)

世界では看護職は健康管理における専門職と考えられており、自律性は専門的な看護職の確立のために必須要素である。高等教育省は、マレーシアにおいて看護教育、看護学理論体系、看護基準などを充実させて、看護職が高い倫理基準を持って、主体的に、自律的に意思決定と実践ができるようにしなければならないと指摘している。また、職能団体であるマレーシア看護師協会 (Malaysian Nurses Association) は政治的、財政的に政府から独立し、看護教育、看護政策、および看護の将来像などについて強いリーダーシップを発揮する必要があると指摘している。

IV. マラヤ大学における看護教育プログラム

マラヤ大学では1993年に看護教育部が創設された。ディプロマを有する看護師に入学を認め、3年課程の看護学教育によって看護指導者および看護管理者を育成し

た。その後、4年課程に移行し、2007年に医学部に看護学科 (Department of Nursing Science) が設立された。学生は効果的、倫理的、そして安全な看護知識を学び、根拠のある看護 (Evidence-based nursing) を習得し、さらに研究文化の涵養を図ることを目標としている。

4年課程のカリキュラムを見ると、47科目があり、その内、医科学の12科目 (科目に占める割合、26%)、看護学 (実習を含む) 26科目 (55%)、社会科学9科目 (19%) で、履修単位数 (credits) で見ると、それぞれ24%、60%、16%であり、4年生の後期は看護実習とインターンに当てられている。特色ある科目はイスラムおよびアジア文明論、民族関係論、起業家精神文化論、英語伝達能力、看護師の指導的職務などである。イスラムおよびアジア文明論や民族関係論は多民族国家であるマレーシアの特色を示している。老年看護 (Geriatric nursing) に関係した内容は大学の看護プログラムの中で教えられているが、むしろ継続教育で専門看護師の資格として考えられている。また、マラヤ大学におけるカリキュラムを見ると、本学で見られる教育原理や特別支援教育に関するような独立した教科は見られなかった。

大学院修士課程では、院生は専門的看護における高度な熟練技術を修得し、さらに看護学研究を行うことを目的としている。また臨床看護における研究の方法論、分析、理論的背景を学び、倫理的に適合した研究課題や健康管理などについて、高度な知識と思考力を修得する。

修士課程の入学資格として、看護学士号を取得していること、看護師として登録していること、6ヶ月の卒業教育を受けていること、2年以上の臨床経験があることなどである。外国人には、看護学士号と英語能力資格を要求している。修士課程の主なコースは、看護学研究法、看護研究プロジェクト、質的看護研究、医学統計学、コンピューターによる統計学、健康評価、看護学実習、そして疫学の原理と方法などである。その中で、履修単位数では、看護学研究と看護学実習が50%を占めている。履修期間は2年間で、修了者には看護学修士号 (Master of Nursing Science: MNSc) が授与される。さらに、大学院には博士課程があり、Doctor of Philosophy (Ph.D) を授与している。また、臨床専門分野の看護学博士号 (Doctorate in Nursing in Clinical Specialization) を授与できる課程を準備している。

V. 考 察

2020年を目標とした、マレーシアの看護教育の変革

についての高等教育省看護教育タスクフォースの提言の概要を述べた。2020年を過ぎた現在、この提言がどの程度実現されたのか関心がある。すでに高等教育省の下にあるマレーシア看護評議会 (Malaysian Nursing Council: 大学の看護学部の学部長などによって構成) は、この提言の成果を検証して、今後10年間の看護教育の飛躍のための検討を現在進めており、その報告書が近く Nursing Board of Malaysia に提出される予定である。

しかしながら、高等教育省の考え方と保健省の方針とは必ずしも一致しているとは言えない。高等教育省は保健省管轄の看護教育機関を、高等教育省に一元化する教育体制を目指しているが、現在のところ、8国立大学の看護教育は高等教育省の管轄で、一方、単科大学の看護教育は保健省の管轄であると言われている。また、高等教育省はディプロマ課程を縮小する方針であるが、保健省はディプロマ課程を存続させる方針である (Ministry of Health Malaysia, 2017a)。マレーシア資格証明基準 (Malaysian Qualification Framework Standards and Criteria) の認証については、高等教育省の管轄の看護教育機関は以前に認証を受けているが、保健省管轄の教育機関は認証を受けていなかった。現在では保健省の管轄下にある看護教育機関もその認証を受けている。

高等教育省は、継続教育のプログラムはよく計画され、また多くの看護師が受講しているプログラムであることを高く評価しているが、保健省と高等教育省のプログラムが重ならないように調整する必要があることを指摘している。Chongら (2011; 2014) によれば、継続教育は看護実践の質の向上やキャリア発展のために有益であるが、継続教育の立案者は看護師の要望によく一致するプログラムを考えなければならないことを指摘している。

Jamil・Ibrahim (2017) によれば、マレーシアでは、比較的若い看護教員 (newly appointed nurse lecturer, nurse educator) に、大学や病院で、教育、研究、そして看護実践の3部門の責任を負わされるために、負担がかなり大きい現状を述べている。また、教える内容の知識はあるものの教育方法が不足しているために、十分な教育ができないことを述べている。これはマレーシア大学の他の学部においても似たような状況が見られ、若い研究者に研究、講義、そして学生指導など過大な負担がかかっているように感じられた。若い研究者には、メンターと言われるような良き指導者、あるいは相談者が必要であるように思われる。

マレーシア大学と本学のカリキュラムの比較では、本学では教育原理、教職論、教育の方法および技術、学校保健など教育関係の教科が多く含まれている点で相違が見られた。これはわが国の看護教育の特色の一つではないかと思われる。

近年、マレーシアでは看護教育の発展によって、修士号や博士号を保有した看護師が増加し、そのような看護師が病院のみならず、いろいろの管理職や研究職に就くようになった。しかし、Sowtali (2019) は、そのような看護師の外国への頭脳流出や燃え尽き (burn-out) 問題を指摘しており、また、諸外国に比べると男性看護師が少ないことなどを述べている。今後、マレーシアにおいて、高学歴の看護師や男性看護師などに対して、適切なポストの増加や研究支援などが必要であると思われる。

最近、わが国において、外国人看護師の受け入れが始まっている。マレーシアと気候、言語 (英語)、食物、そして生活習慣がよく似ているシンガポールでは、多くのマレーシア国籍の看護師が働いている。シンガポールは中国系の人々が多く住んでいる地域であるので、中国系マレーシア国籍の看護師にとっては、生活習慣において問題は少ないように思われる。一方、イスラム教徒のマレーシア国籍の看護師にとっては、イスラム教徒の女性が頭に被るヒジャブ (hijab) がシンガポールの病院では許されていないので、シンガポールの病院で働くことにはあまり熱心ではないと言われる。むしろ、イスラム教徒の看護師にとっては、ハラール食品の入手ができ、宗教的生活習慣が似ているアラブ諸国の病院で勤務することを希望するようである。したがって、マレーシアの看護師のわが国への受け入れについては、いくつかの課題がある。第一に、マレーシア人にとって、まず日本語を習得しなければならないこと、第二に、イスラム教徒の看護師には病院でのヒジャブの着用の問題やハラール食品の入手の困難さなどがあること、第三に、賃金格差がマレーシアとわが国とではあまり大きいものでは無くなっていることなどが考えられる。Hiranoら (2012) は、わが国で働く予定のフィリピンおよびインドネシア国籍の看護師に、わが国で働く理由について調査をしたところ、賃金格差による経済的な利益よりも、むしろ、わが国で高い専門的な知識や技術を習得して、これから母国での自身のキャリア発展の機会として捉えていることを明らかにしている。したがって、今後、外国の看護師を呼び寄せるためには、わが国の看護文化、看護技術の独

自性や専門性などを提示していく必要があるように思われる。また、マラヤ大学の看護研究者は、わが国の看護教育や看護文化について関心が高いので、今後、わが国の大学との国際交流などは有意義であるように思われる。

VI. 結 論

看護の専門化、高度化や拡大に対応して、マレーシアの高等教育省看護教育タスクフォースは、看護教育を大学3年課程（ディプロマ課程）から4年課程（学士課程）に変革する方針を示した。看護教育において、問題解決型学習や学生中心の学習方法を行い、学生の評価方法を改善し、根拠のある実践ができる看護師を養成する方針を示した。2020年頃までに臨床において、学士号を有する看護師を増加させて、看護実践の質の向上を目指した。また、大学院を設置して、看護学修士号および博士号を取得した看護師を増加させ、看護職の高度化を図る方針である。さらに、看護職を専門職として位置づけ、看護職の自律性を確立する必要性を指摘している。

マラヤ大学では、学生が効果的、倫理的、そして安全な看護知識を学び、根拠のある看護を習得し、さらに研究文化の涵養を図ることを目標にしている。また、カリキュラムには、イスラムおよびアジア文明論、民族関係論などが含まれており、これらの科目はマレーシアの多民族国家の特色を示している。さらに大学院修士課程および博士課程において、看護学研究が主要な要素になっている。マレーシアでは、比較的短い期間で、看護教育の変革と高度化を推進していることが分かった。

謝 辞

マラヤ大学の看護学科の資料の閲覧の便宜を図っていただきましたマラヤ大学医学部、副学部長 Lim Yvonne Ai-Lian 教授に感謝いたします。

文 献

- 別府正志, 奈良信雄 (2009). マレーシアの医学教育, 医学教育, 40, 311-315.
- Chong Mei Chan, Francis Karen, Cooper Simon, Abdullah Khatijah Lim (2014). Current continuing professional education practice among Malaysian nurses, *Nursing Research and Practice*, 2014, Article ID 126748, <http://dx.doi.org/10.1155/2014/126748>.
- Chong Mei Chan, Sellick Kenneth, Francis Karen, Abdullah

- Khatijah Lim (2011). What influences Malaysian nurses to participate in continuing professional education activities? *Asian Nursing Research*, 5, 38-47.
- 外務省 (2021). マレーシア基礎データ, <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/malaysia/data.html#section1> (アクセス: 令和3年8月20日).
- Hirano Ohara Yuko, Ogawa Reiko, Ohno Shun (2012). A comparative study of Filipino and Indonesian candidates for registered nurse and certified care worker coming to Japan under economic partnership agreements: An analysis of the results of questionnaire surveys on the socioeconomic attribution of the respondents and their motivation to work in Japan, *Southeast Asian Studies*, 49, 594-610.
- Jamil Jamaliah, Ibrahim Rugayah (2017). Issues and trends in nursing education in Malaysia: A literature review, *ResearchGate*: <https://www.researchgate.net/publication/327906050> (アクセス: 令和3年9月1日).
- リー・ミアウ・シン, 作田裕美, 村川由加理 (2014). マレーシアの看護事情, *大阪市立大学看護学雑誌*, 10, 27-33.
- Mohamad Mahathir (1991). *Malaysian: The way forward* (Vision 2020), <https://policy.asiapacificenergy.org> (アクセス: 令和3年9月10日).
- 真野俊樹 (2013). マレーシアの医療と外国人誘致政策, *共済総合研究*, 64, 6-22.
- Ministry of Health Malaysia (2017a). Annual Report, Ministry of Health Malaysia 2017, 1-488.
- Ministry of Health Malaysia (2017b). Planning Division, Health Informatics Centre, Ministry of Health Malaysia, Health Fact 2017, <http://www.moh.gov.my/images/gallery/publications/Health%20FACTS%202017.pdf> (アクセス: 令和3年9月10日).
- Ministry of Higher Education Malaysia (2010). Development of Nursing Education in Malaysia Towards the Year 2020, University Publication Centre (UPENA), Universiti Teknologi MARA, Shah Alam, 2010, <https://www.moe.gov.my> (アクセス: 令和3年8月15日).
- 日本貿易振興機構 (2014). マレーシアにおける医療・社会福祉サービスに関する調査報告書, <https://www.jetro.go.jp/world/asia/my/stat.html> (アクセス: 令和3年8月10日).
- 大西弘高 (2005). マレーシアの医学教育, *医学教育*, 36, 357-363.
- Singapore Nursing Board (2017). Annual Report 2017, 1-50.
- Sowtali Siti Noorkhairina (2019). Projection of nursing profession in Malaysia: Where we are and what need to be

improved? Nursing & Healthcare International Journal, 3,
000174, Doi: 10.23880/nhij-16000174.

高山祐輔, 麻生有二, 塩川芳昭 (2018). マレーシアの医療と救
急医療, 杏林医学会誌, 49, 217-228.

WHO (2018). UHC and SDG Country Profile 2018, Malaysia.
1-4.

山田順子, 勝間 靖 (2020). ASEAN における資格の相互承認
協定 (Mutual Recognition Arrangement : MRA) の動向と看
護人材, 看護師の国境を越えての移動一看護資格の多国間相
互承認とその影響, 国立国際医療研究センター, 国際医療協
力局, テクニカル・レポート, 13, 5-8.

山本則子, 前原邦江, Shuib Rashidah, 杉下知子 (2000). マレー
シアの看護実践・教育活動の視察報告～第3回マレーシアに
おける看護学教育～, 家族看護学研究, 6, 11-14.

*責任著者 (Corresponding author) : 宇仁茂彦, E-mail : ushigehiko@
gmail.com

著者紹介 : 宇仁茂彦は2011年から2016年まで, マラヤ大学,
生物学研究所で大学院の研究および教育に携わった.

Nursing Education in Malaysia: Development and Characteristic of Nursing Program

Uni Shigehiko, Chui Ping Lei, Tang Li Yoong, Mat Udin Ahmad Syihan, Zainuri Nur Afiqah,
Chong Mei Chan, Abdullah Khatijah Lim, Nakaoka Akiko, Kimura Daisuke, Uga Shoji

Abstract

In the recent times, nursing education in Malaysia has incorporated many changes into the curriculum framework at universities. To study this progress of nursing education in Malaysia, we examined an article titled “Development of Nursing Education in Malaysia towards the year 2020” published by the Nursing Education Task Force, Ministry of Higher Education, Malaysia. Additionally, we analyzed data from the Bachelor’s and Master’s programs at the Department of Nursing Science in the Universiti Malaya. In 2010, most of the nurses were Diploma graduates who have obtained a three-year nursing education from colleges or universities. To improve the efficacy of nursing practices, the Ministry of Higher Education has proposed that nursing education should shift from a Diploma program to a Bachelor’s program with a four-year curriculum in universities. In 2020, the Ministry proposed more nurses with Bachelor’s degree to work in clinical settings. The Ministry proposed that nursing posts such as clinical nurse specialist, nurse manager, and director of nursing should be offered to nurses who have completed their Master’s program. In the Department of Nursing Science, Universiti Malaya, the Bachelor’s and Master’s programs have achieved rapid progress. The Bachelor program intends to produce graduate nurses who practice evidence-based nursing. The undergraduate nursing curriculum of the Universiti Malaya includes subjects such as Islamic and Asian Civilization, Ethnic relationship, and Entrepreneurship culture, which reflect the multi-ethnic society of Malaysia. Research in nursing is a major component of the Master’s program. The graduate school also offers Doctor of Philosophy (Ph.D) by research, where candidates focus on research related to field of nursing. Problem-based learning, student-centered learning, and evidence-based practice are core topics in nursing education of Malaysia. Nursing profession and autonomy are pertinent issues for professional nursing in Malaysia.

Key words : Autonomy, Evidence-based practice, Nursing profession, Nursing research,
Universiti Malaya

